



野木小学校だより

# 野ぎくの子

校長室から 2024/3/22

2022年度 学校教育目標

「自ら問い 自ら考え 自ら行動する」

【めざす児童像】

よく考える人・自分や人を大切にする人・チャレンジする人



## 第115回卒業証書授与式

### はなむけの言葉 (校長式辞)

やわらかな日の光が降り注ぎ、日ごとに春の息吹が感じられる頃となりました。

この佳き日に、若狭町副町長 二本松正弘様をはじめ、御来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、ここに第百十五回若狭町立野木小学校卒業証書授与式を挙行できますことを心から感謝いたします。高いところからではございますが、厚くお礼申し上げます。

野木小学校を巣立ちゆく十名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。先ほどは一人一人に卒業証書を手渡しました。皆さんが手にした卒業証書には、この六年間のうれしかったことや楽しかったこと、悔しかったことや悲しかったことなど、たくさんの思い出が織り込まれています。また、それと同時に、これまで温かく見守ってくださった御家族や地域の方々、教え導いてくださった先生方など、たくさんの人達の深い愛情が込められていることも忘れないでください。

皆さんの小学校生活六年間のうち半分以上にも及ぶ三年余りの間、新型コロナウイルスの感染拡大により、何かと窮屈で、気持ちが伸び伸びとできない日が続きました。しかし、そのような重苦しい時期を皆さんはしっかりと乗り越え、昨年五月には感染症の分類が五類に引き下げられて、マスクを外し、様々な活動を思い切りできるようになりました。

各色がオリジナルのキャラクターを考えて団旗を作り、持てる力を出し切った体育大会。ユニークなアイデアでみんなを楽しませてくれた児童会活動などの行事はもちろん、学年を問わず誰とでも気さくにふれ合える仲の良さや大らかさなどが野木小学校にさわやかな風を吹かせてくれました。下級生からの皆さんに対する不平や不満、そして友人関係のトラブルなどを一度も耳にしたことがないということも皆さんの素晴らしさを物語っています。後ろに座っている五年生をはじめ在校生の皆さんも、このような六年生の素晴らしい姿をしっかりと受け継いでくれることでしょう。

さて、卒業にあたり皆さんに次の言葉を贈ります。それは「**一步を踏み出す勇氣**」という言葉です。少し話は変わりますが「成功」の反対は何だと思えますか？ そうですね。「失敗」です。国語の問題に出たらそう答えてください。

しかし、若狭町出身で日本有数の商社である伊藤忠商事の元会長である小林栄三さんに、かつてお話をお聞きしたときに、「成功」の反対は「失敗」ではなく「何もしない」ことだとおっしゃっていました。何もしないことは失敗と同じ、いや、失敗よりもよくないことだと言っておられるのです。

皆さんは四月から中学生になります。勉強も運動も小学生とは比べものにならないほどに質も量も増えます。楽しいこともたくさんありますが、辛く厳しいこと待っているでしょう。

毎日頑張って勉強をしても、なかなか思うような成績が得られないこともあるでしょう。部活動で一生懸命練習してもなかなか上達しなかったり、選手に選ばれなかったりすることもあるでしょう。また、友達のために思って忠告したことが原因で、仲が気まずくなる場合もあるかもしれません。しかし、これらは失敗なのでしょう？ 小林さんの言葉を借りれば、この人は「何もしない」のではなく、立派に一步を前に踏み出している人なのです。「何もしない人」、つまり勉

強や部活動を一生懸命しない人、友達にノーと言えずに流される人とは比べものにはなりません。結果は思うようにはなくても、このように一步を踏み出す勇気を持った人になってほしいのです。

皆さんの学習発表会での群読や、夏の集会、6年生を送る会での劇など、いざという時の物おじせず堂々とした態度は立派でした。また、学級ではお互いに注意し合い、高め合う姿も見られました。これらの姿を見て、皆さんは十分に一步を踏み出す勇気を持ち合わせていることを確信しました。ただ、仲間とならできたことが一人一人個人となると難しいこともあります。そういった時は、野木小学校で支え合った友達のこと、そして「自ら問い 自ら考え 自ら行動する」という学校目標を思い出し、勇気を出してください。結果が出ずに悔しい時もあるとは思いますが、何もしないと後悔が残ります。後悔のないように歩んでほしいのです。皆さんなら必ずできるはずです。

結びになりましたが、保護者の皆様、本日は本当におめでとうございませう。お子様が立派に成長されたことを、心からお慶び申し上げます。この六年間、さぞかしご苦勞もあつたことと思ひますが、今日この晴れ姿を御覧になり、喜びもひとしおのことと存じます。これからも温かく子供たちの成長を見守っていただくとともに、先ほどお話しした、一步を踏み出す勇気をそつと後押ししていただきますようお願ひ申し上げます。

また、長きにわたり、本校の教育に多大なるお力添えをお寄せいただいた地域の方々にも心から感謝するとともに、これからも子供たちを、「野木の宝」として末永く見守っていただきますようお願ひ申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん、新しい世界へ向かつて元気に羽ばたいてください。

皆さんの、これからの御活躍を願ひ、はなむけの言葉といたします。



令和六年三月十四日

若狭町立野木小学校長 三宅 勝



## 3月の校長講話 3月7日

生まれてから今まで、叱られたことが一回もない人はいますか？（誰も手を挙げない）

今まで誰かに叱られたことがある人？（児童も教職員も全員が手を挙げる）

皆さんも先生方も叱られたことがない人なんていないんですね。私も小学校の頃は本当にたくさん叱られました。父親に家の中から雪のたくさん積もった外に放り投げられたり、真っ暗な蔵の中に鍵をかけて閉じ込められたりしましたが、あの時の怖さや心細さは今でも忘れられません。学校の先生に、「叱られる態度が悪い！」と言って叱られたこともありました。きっとふてくされたような顔をしていたのでしょね

今日は「叱られるとはどういうことか」という問いについて考えてみたいと思います。

今までみなさんは誰に叱られましたか？

「家の人」「先生」「友だち」「スポ少の監督」……

どんなことで叱られましたか？

「片づけをしなかった」「忘れ物をした」「やれと言われたことをやらなかった」……

叱られたときはどんな気持ちでしたか？

「いやな気持ちになった」「悲しかった」「ムカついた」「今度は気をつけようと思った」……

「しかる」は漢字で「叱る」と書きます。この漢字の元は「𠂔」という形で、これは口で縦横に切りつけるという意味があります。刀で切りつけると「切」になりますね。このように叱られるとは相手に口で切りつけられるのだから、叱られていやな気持ちがするのは当たり前だと思います。



では、次は叱る人の立場になって考えてみましょう。叱る人は楽しい気持ちだと思いますか？  
きっと楽しい気持ちではないでしょうね。では、こんなにいやがられることが分かっているのに、一体なぜ叱るのでしょか？

それは、間違いを教えてあげるため、よい人間になってほしいから、これから幸せに生きていてほしいからなのです。つまりその人を大事に思って幸せを願うこと、これを「愛情」といいます。親や先生は、あなた方が憎たらしくて、困らせようと思って叱るのではありません。あなた方にこれから幸せに生きていてもらいたいという願いがあるからこそ叱るのです。幸せな人生を送るためには、このままではいけない。今のうちのここを直しておけば、必ず幸せになれる。だから、そこを分からせるために、強く口で言って叱るのです。

最初の問いに戻って「叱られるとはどういうことか」という問いに対する私の答は、「あなたが大事だと思われている」または「あなたに幸せになってほしいと思われている」です。皆さんを大事に思い、幸せになってほしいと思う人しか叱ってくれないのです。

叱られたときには悔しい悲しいムカついたりふてくされたりするかもしれませんが、時間がたって少し落ち着いたら、自分のどこがいけなかったのか（反省）、今度からはどうすればよいのか（改善）をしっかりと考えて行動に移すことが大切です。そして叱ってくれた人に「ありがとう」「よくぞ叱ってくださいました」という感謝の気持ちを持つようにすれば、皆さんは必ず立派な人になり、幸せに生きていくことができるはずです。

### ～4月のおもな行事予定～

- 4月 5日（金） 入学式準備 新5・6年生が9時までに登校
- 4月 8日（月） 着任式 担任発表 入学式 11：30一斉下校（2～6年）
- 4月 9日（火） 始業式 11：30一斉下校
- 4月10日（水） 2～6年生給食開始 12日まで14：30一斉下校
- 4月12日（金） 1年生給食開始
- 4月15日（月） 町教育研究会 13：00一斉下校
- 4月18日（木） 全国学力・学習状況調査（6年 国・算）
- 4月22日（月） 職員会議 14：30一斉下校
- 4月26日（金） 授業参観 教育懇談会 育友会総会（午後） 14：30一斉下校
- 4月29日（月）   昭和の日
- 4月30日（火） 春季遠足（雨天順延） 集金日



## 転任のごあいさつ

### 三宅 勝 校長(三方中学校へ転任) 在任期間:令和4年4月1日～令和6年3月31日



朝、児童玄関前に立っていると、遠くから大きな声で何回も「おはようございます」とあいさつしてくれる子、声は小さいが私の目を見てはにかみながらあいさつしてくれる子、あいさつより先にカマキリやバッタを自慢気に見せてくれる子、「今日はぼくの誕生日やで」と知らせてくれる子など様々でした。こちらも「今日も頑張って登校できたね」というねぎらいの気持ちを精一杯込めてあいさつを返していました。本当に純朴でかわいらしい野木っ子たちでした。このたび役職定年となり、教諭としての異動になります。校長として最後の2年間をこの素晴らしい野木小学校で過ごせたことに心より感謝しています。ありがとうございました。野木地区や野木小をこれからも応援しています！

### 齋藤 千花 教諭(鯖江市中河小学校へ転任) 在任期間:令和3年4月1日～令和6年3月31日



3年前、この野木小学校に赴任し、小学校での経験が少ない私は不安と緊張でいっぱいでした。しかし、子どもたちの笑顔を見て、そんな不安や緊張も吹き飛びました。明るく素直な子どもたち。そんな子どもたちとたくさん話し、たくさん笑い、3年間、本当に充実した日々を過ごすことができました。保護者の方や地域の方々にも大変お世話になりました。いつも温かく見守ってくださりとても心強かったです。この野木小学校で担任として貴重な経験をさせていただき、教員として成長させてもらったなぁと感じています。若狭町を離れるのはとても淋しいですが、野木小学校で学んだことを生かして、また新たな場所で頑張りたいと思います。本当にありがとうございました。

### 長田 友秀 教諭(三方中学校へ転任) 在任期間:平成31年4月1日～令和6年3月31日



「野木はいいところだよ」  
私が、野木小学校に赴任することが決まって、多くの人にかけてきた言葉です。初めての小学校勤務ということで大変不安でしたが、この言葉でとても安心しました。実際、さまざまな方と触れ合う中で、この言葉の意味がとてもわかるようになっていきました。とても温かく協力的で、本当に過ごしやすい5年間でした。私は、これから野木小学校に携わる方がいたら、こう言おうと思います。「野木はとてもいいところだよ」と。この地で学んだことを、今後の糧にしていきたいと思います。いろいろ力不足なところがありましたが、見守っていただき本当にありがとうございました。

### 西井 真紀 講師(小浜美郷小学校へ転任) 在任期間:平成28年4月1日～令和6年3月31日



野木小学校に初めて来た8年前、子どもたちのキラキラした笑顔が私の不安を拭い去ってくれたのを覚えています。元気で明るく素直な子どもたちと過ごす毎日はとても楽しく、あっという間に月日が過ぎていきました。そして、子どもたちだけでなく、野木地区のみなさまにもとても温かく迎え入れていただき見守ってくださいましたこと、本当に嬉しかったです。ありがとうございました。  
野木小学校の子どもたちと野木地区のみなさんと過ごした8年間は私の宝物です。お別れはとても寂しいですが、ここでの思い出を胸に新任地でも笑顔で過ごしたいと思います。長い間本当にありがとうございました。

ある保護者の方から、「野木小だよりの講話について親子で話すのが楽しみの一つになっていました。」といううれしいメッセージをいただきました。低学年には少し難しい内容かも知れませんでした。このように家庭でフォローしていただき、親子の会話のネタとしていただいていたことを大変ありがたく思います。つたない内容でしたがお読みいただきありがとうございました。 合掌